

バンングラに新会社

子供服の丸久カジジュアルを生産

子供服メーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石公宣代表)は、バンングラデシユに海外3拠点目となる「マルヒサ・パシフィック」を設立した。日本の大手量販店や専門店、アパレルメーカーに向けたカジジュアルウェアなどの生産を行う。日系100%資本の衣料品製造輸

出会社としては3番目の進出になる。資本金は7000万円(約1億円)で、所在地は首都ダッカの中心街から15キロのアダムジール輸出加工区。首相府直轄のバンングラデシユ輸出加工区庁(BEPZA)と1万6350平方メートルの土地使用契約、各種優遇措置を

受けられる契約に調印した。第1期として5400平方メートルの工場を設立(10年4月操業予定)し、ミンミン200台、アイロン24台、延反機3台、裁断機7台、検針機3台などの設備を導入する。投資額は約3億円。従業員は350人。年産能力は288万枚。売り

上げ目標は720万ドル。中国とタイ、日本に生産拠点をもち、中国の比率が約70%と高く、人件費の高騰が顕著になってきた。チャイナリスク対策としていくつか候補地を検討する中、最終的にバンングラデシユに決定。繊維製品の一大産地であり、原材料の手配や縫製

工場、プリント・刺繍など二次加工工場といった産業インフラが整っている点、一般特恵関税制度により輸出での優遇がある。また、労働者の賃金が月額50ドル前後と安く、他のアジア諸国に比べてもコスト競争力があることなどが決め手となった。自社工場設立を前提に、現地のいくつかの衣料品製造工場と生産指導などの関係を重ね、徐々に生産依頼をしてきた。

今後、2期、3期の計画もあり、染色加工や編み立ての設備を4～5年先をめどに増強する予定。新工場の操業を機に、

海外での生産比率をバンングラデシユ30%、中国工場45%、タイ工場25%とする。3拠点にそれぞれ特色を持たせ、バンングラデシユは欧州テイストやカジジュアル定番、低価格商品、中国は短サイクル商品、タイは高級品、緻密な商品、細番素材を使用した商品などを生産する。

海外での生産比率をバンングラデシユ30%、中国工場45%、タイ工場25%とする。3拠点にそれぞれ特色を持たせ、バンングラデシユは欧州テイストやカジジュアル定番、低価格商品、中国は短サイクル商品、タイは高級品、緻密な商品、細番素材を使用した商品などを生産する。

織研新聞 1面掲載
2009年(平成21年)5月27日(水曜日)